

No.	質問	回答
1	目視や現地調査をドローンやセンサーやカメラでやろうというアナログ規制改革が政府や都庁でも進んでいますが、地下鉄の点検では活用できないでしょうか？	今回の消火設備点検図面は、点検経路に扉や点検口があり、遠隔では開けられないこと、地下鉄駅構内に電波等が一切入らない場所もあることから、そもそもドローンなどが使用できない現状です。 他の鉄道会社では、別の内容の点検にドローンを活用している事例も出てきていますので、今後参考にしたいと考えていると考えています。
2	点検項目や結果データの在り方というのは、ほか鉄道会社と共通化されているのでしょうか？	まず、鉄道設備は運行の安全を確保するものであるため、機密情報となるものが多く、基本的には詳細情報を他社と共有したりすることは行っておりません。 参考にどんな点検を行っているか、概要等を意見交換することはあります。
3	3Dカメラでの撮影で様々な経路などの再現できないでしょうか？	3Dカメラを使って経路などの再現はできるかもしれませんが、102駅全てを再現しようとすると膨大なデータになるため、具体的な検討は進んでおりません。一方で、鉄道の一部施設について、3Dカメラを使って再現することを他の部署で検討しているところはあると聞いております。
4	今後、構内図のデータ更新が必要かどうかを、漏れがないように、どのように探知し、誰が更新する手順となっているのでしょうか。	駅構内図は別部署でデータを管理し都度更新しています。概ね年に1回程度更新されますので、更新された駅構内図を管理部署から提供してもらい、工務事務所設備担当の中で消火設備担当(2名)が修正する流れになります。
5	スマホでのPDFデータは、物理端末にデータを直接入れたものを閲覧しているのでしょうか、クラウド上のデータをスマホで閲覧しているのでしょうか	PDFデータは、物理端末に直接入れたものを閲覧しております。地下鉄駅構内には電波等が一切入らない場所もあり、今回点検するようなバックヤードは、特にクラウド上にあるデータを読み取れないリスクが高いため、利用していません。